

第2章 年間指導計画の作成 【学習指導要領解説P63～69】

第1節 年間指導計画の基本的な考え方

1. 年間指導計画とその構成要素

年間指導計画は、学年や学級において、その年度の総合的な学習の時間の学習活動の見直しをもつために1年間の流れの中に単元を位置付けて示すものである。どの時期に、どれくらいの時間をかけて、どのように学習活動を展開するのか、またその活動を通して、どの程度まで児童の学びを高めたのかということについて、1年間にわたる具体的な児童の学習の様子を思い描きながら構想を立てるようにしたい。

年間指導計画には特に固定的な様式はないが、総合的な学習の時間が一層豊かなものになるように、各学校が実施する教育活動の特質に応じて必要な要素を盛り込み、活用しやすい様式に工夫して表すことが大切である。その際、各学校が作成する全体計画に示された目標及び内容、資質や能力及び態度との関連性に十分配慮することが重要である。

年間指導計画には様々な様式があるが、そこに含まれる基本的な構成要素としては、単元名、各単元における主な学習活動、活動時期、予定される時数などがある。これらの要素に加えて、単元のねらい、児童の意識、各教科等との関連、外部講師や異校種との関連などを記す場合もある。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
総合的な学習の時間	ぼくらの小麦を育てよう (20時間) ・前年度から育てている小麦を季節に合わせて世話し、手打ちうどんに挑戦しよう ・小麦の成長や畑の周囲の移り変わりから自然を見つめ、自然を感じよう					ぼくらの小麦から本格手打ちうどんをつくろう (32時間) ・実った小麦をできる限り自分たちの手で収穫し、小麦粉を作ろう ・昔の道具を使って手打ちうどんの作り方を学ぼう ・お世話になった皆さんに手打ちうどんをごちそうしよう			身近な伝統文化を受け継ごう (18時間) ・地域で大切にされている伝統文化を見付けよう ・獅子舞とお囃子の保存に取り組み島田さんに話を聞こう ・地域の人の願いを受け継ごう			

図1：年間指導計画の構成要素

2. 年間指導計画における時数配当の考え方

各学年に配当された総合的な学習の時間数は、学校教育法施行規則の別表1に示されたとおり第3学年から第6学年までそれぞれ70単位時間を上回るように計画する必要がある。この時数を確保した上で、各単元の実施に必要なと見込まれる時間数を配分することになる。

その際、年間を通じて毎週2時間を確保して継続的に実施するものや、発表会や地域での調査活動などのように活動に応じて集中的に実施するもの、さらに複数の学習活動が平行して行われるものなど、各学年や学級で実施しようとする学習活動の特質に応じて、時数を配当することになる。いずれの場合にも、当該学年の教育課程全体を視野に入れつつ、予定される学習活動を実施するために必要な時数を配当することが重要である。

3. 年間指導計画における単元配列の考え方

年間指導計画において単元を配列する際には、下の図2のようないくつかのパターンがある。配列する際の工夫としては、例えば、前ページの図1のように複数の単元の間は何らかのまとまりや主題性をもつようにすることが挙げられる。それは、単元と単元が活動や児童の意識の流れにおいて一定の連続性を持ち、場合によっては連なって展開されることで、活動の見通しをしっかりとって探究に取り組むことができる等、学びを深め、児童の学習意欲を高める効果が期待できるからである。

これらの他にも様々なパターンがあり、それぞれに特徴が認められる。充実した総合的な学習の時間を計画するために工夫を凝らしながら作成することが望まれる。

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
分散型	■			■				■				
年間継続型	■					■						
集中型				■		■						
並列型	■				■		■					
複合型	■			■				■		■		
	(学級)						(学年)			(学級)		

図2：単元配列のパターン例

①分散型

総合的な学習の時間の単元を学期ごとなどいくつかの期間に分けて配列するものである。このとき、単元ごとに取り扱われるテーマが異なる場合が多い。

②年間継続型

1年間を通じて同じテーマで継続的に取り組むものである。ただし、年間を通じて取り組む場合でも、活動には必ずと一定のまとまりがあり、まとまりごとにいくつかの単元に分かれることもあることに留意したい。

③集中型

季節や地域の行事などを中核にしてある期間に集中的に取り組むものである。その期間は、総合的な学習の時間を中心として学校生活が組織される場合もある。

④並列型

同じ時期に複数の単元に平行して取り組むものである。この場合、二つの単元の間でテーマが関連性をもつ場合と、テーマが相互に独立している場合がある。

⑤複合型

学年単位の活動と学級単位の活動など、異なる学習形態や学習集団などを組み合わせて取り組むものである。

【学習活動を具体的に示した年間指導計画事例】

①分散型

図3は、学期ごとに3つの異なるテーマの単元を実施する第3学年の年間指導計画であり、単元名、単元目標、主な学習活動、活動時期、予定時数、児童の意識の流れが記載されている。1学期は環境、2学期は地域、3学期は福祉がテーマである。

	4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総合的な学習の時間	<p>〇〇川の「アクアリウム」をつくらう (25時間)</p> <p><目標> 川の生き物を飼育する活動を通して、地域の川やそこに生息する様々な生き物に興味を持ち、地域の自然を大切にすることができる。</p> <p>〇地域の川で魚を捕ろう ・博物館の学芸員の指導のもと、地域の川で網を使って魚や水生昆虫を採集し、種類を調べる。</p> <p>〇〇川にこんなたくさんの種類の生き物がいたなんて知らなかったよ。よく見ると魚の模様はきれいだな。</p> <p>〇川の魚を飼ってみよう ・図鑑やインターネットで川の魚の飼育方法を調べ、複数の水槽に種類ごとにに入れて飼育する。 ・水槽に貼る、魚の説明カードを作成する。</p> <p>・教室に水槽が並んで、まるで水族館のようになったよ。家族のみんなに見せたいな。</p> <p>〇「〇〇川アクアリウム」を公開しよう ・参観日に、ポスターセッションの要領で、それぞれの水槽の前に立ち、魚の名前の由来や生態などについて保護者に説明する。 ・終了後、飼育していた魚を川に戻してやる。</p> <p>・保護者のみなさんに、〇〇川の魚の説明ができてうれしかったな。〇〇川がもっと好きになったよ。</p>			<p>もっと知りたい 〇〇公園 (25時間)</p> <p><目標> 地域の公園での調べ活動を通して、様々な人々がよりよい公園にしようとしていることに気付き、自分たちも公園にかかわる活動に進んで取り組んでいこうとする。</p> <p>〇公園のとくちょうを調べよう ・地域にある〇〇公園を他の公園と比べ、遊具や花壇、観察池などの特徴を調べる。</p> <p>・公園って遊ぶだけでなく、自然観察もできるね。 ・花壇の手入れをしている人がいたよ。</p> <p>〇公園をきれいにしている人にインタビューしよう ・公園の管理や清掃をしている人について調べる。 〔市役所・自治会・ボランティアなど〕</p> <p>・公園に来る人に喜んでもらえるように掃除をしている。 ・私たちに公園のためにできることはないかな。</p> <p>〇公園ピカピカ大作戦 ・自治会の方と一緒に公園のクリーン作戦を行う。 ・ポスターを作成し、公園の美化を地域の方に呼びかける。</p> <p>・これからも美しい〇〇公園であるように見守りたいな。</p>			<p>私たちの知らない 昔の〇〇 (20時間)</p> <p><目標> 高齢者の方々から、地域での昔の生活や苦労についての話を聞くことで、地域に愛着を持つとともに自分たちの生活のあり方を見直すこともできる。</p> <p>〇地域のお年寄りに昔の話を聞こう ・社会科「今に残る昔とくらしのうりかわり」と関連させて、地域に住むお年寄りから、昔の生活の様子でよかったことや苦労したことなどについての話を聞く。</p> <p>・昔の生活の様子について、もっと調べてみたいな。</p> <p>〇郷土資料館で地域の昔について調べる。 ・郷土資料館で、戦争直後の地域の写真を見せてもらい、今の姿と比較する。 ・館長さんに地域の昔の様子について聞く。</p> <p>・今の生活は便利になったけど、お年寄りから学んだ知恵や生き方を大切にしたいな。</p> <p>〇今の生活に昔のよさを生かそう ・お年寄りに聞いた、生活のアイデアをパンフレットにまとめる。 ・節約やものを大切にするなど学んだことをメッセージにまとめ、全校生に発信する。</p>				

図3：学期ごとに異なるテーマの単元を実施する年間指導計画の例（第3学年）

②年間継続型

図4は、「自然環境フォーラム」を開催するという年間を通したテーマで、1年間継続して実施する第6学年の年間指導計画である。

	4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総合的な学習の時間	<p align="center">単元名 「青山地区 自然環境フォーラムを開こう」 (70時間)</p>										
	<p>1. いのちのまほろば 青山版 (20時間)</p> <p>〇6つのグループに分かれて地域の希少な生き物を増殖・展示を目標に育てる。</p> <p>①セツブンソウ ②カスミサンショウウオ ③モリアオガエル ④オヤニラミ ⑤オオクワガタ ⑥ギフチョウ</p> <p>〇観察記録を映像（動画・静止画）で残す。</p> <p>〇担当する動植物の生態について図鑑やインターネットで調べる。</p> <p>〇専門家の協力を得て、生息地の調査を行う。</p>			<p>2. 県立中央公園にピオトープをつくらう (30時間)</p> <p>〇県立中央公園で、行政の協力を得てピオトープを設計し、造成する。</p> <p>〇1学期に育てた動植物のグループに分かれて、動画・静止画を交えた「ニュース番組」の発表原稿（5分間）を作成する。</p> <p>〇グループでの相互評価、保護者による外部評価を生かして、表現力の向上を目指した発表の練習を行う。</p> <p>〇県立中央公園で学習成果の中間発表会を行い、来場者のアンケートをもとに発表の内容や表現方法を見直す。</p> <p>〇県立中央公園のピオトープにすみついた生き物を観察・記録する。</p>			<p>3. 自然環境フォーラムを開催しよう (20時間)</p> <p>〇スタッフに分かれてフォーラムの準備を行う。</p> <p>〇テーマソング「青山の自然」を作る。</p> <p>〇校内の先生方にリハーサルを見ていただき、その評価を仕上げの指針にする。</p> <p>〇青山地区公民館に地域の方々を招き、青山の自然の素晴らしさや自然を守る大切さを伝える。</p>				

図4：年間を通して同じテーマで単元を実施する年間指導計画の例（第6学年）

③並列型

図5は、年間を通して二つの単元を並列して実施する第4学年の年間指導計画であり、上段は福祉、下段は環境をテーマにした単元である。

	4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
総合的な学習の時間	「地域のせんばい 交流大作戦」(35時間)											
	1. 地域のせんばい こんにちわ (8時間) ○地域のお年寄りの集会に参加する。 ○気づいたことや感想について話し合う。 ○お年寄りのための施設やサービスについて調べる。 ○自分たちができることについて話し合う。			2. 交流大作戦 (15時間) ○お年寄りの集会や活動に参加させてもらう。 ○交流会をする。 ○交流会を振り返り、よかったことや課題について話し合う。 ○課題解決のための方法を考えたり、ボランティアなどを行っている方から、アドバイスをいただいたりする。			3. 学んだことを発信しよう (6時間) ○新聞やパンフレットにして発信する。 ○地域の福祉施設にも届けて読んでもらう。 ○地域の祭で発表する。			4. 交流活動を続けよう (6時間) ○地域の大先輩として、これからも学校の行事や授業に来てもらう。		
単元名「みんな大好き！森の王者カブトムシ」(35時間)												
1. カブトムシの幼虫を育てよう (10時間) ○地域の方からもらったカブトムシの幼虫約100匹を大きな水槽で育てる。(毎日、水やりやふんとりを行う。) ○カブトムシの蛹化、羽化の様子を透明のガラス瓶に入れて観察し、その後、産卵させる。 ○学校の裏山のコナラの木に蜜をぬり、集まるクワガタの種類を調べる。			2. カブトムシの幼虫をプレゼントしよう (10時間) ○グループに分かれて飼育ガイドを作成する。 ①カブトムシの一生 ②採り方 ③成虫の飼いや ④幼虫の飼い方 ⑤卵のうませ方 ⑥サナギの観察の仕方 ⑦カブトムシの不思議 ○ペットボトルで飼育キットを作り、卵から500匹の幼虫を3齢幼虫まで育てる。			3. 学んだ成果を地域の方々に伝えよう (15時間) ○地域にアンケートを行い、今と昔のカブトムシの分布の様子を比べ、図にまとめる。 ○1年間でカブトムシの学習を通して学んだことをプレゼンテーションにまとめる。 ○地域の方々に向けて、学んだことを発表する。 ○地域の方々にカブトムシ飼育キットを贈る。						

第2章

図5：平行して2つの単元を実施する年間指導計画の例（第4学年）

④複合型

図6は、単元によって、学年や学級など、活動を展開する学習集団や学習形態が異なる年間指導計画である。上段が学年全体で取り組む単元、下段は学級で取り組む単元である。この他にも一人一課題で取り組む単元や異学年で取り組む単元などが考えられる。

	4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
総合的な学習の時間	学年共通単元 「市立美術館にオリジナルの花器を展示しよう」											
	1. 登り窯でオリジナルの花器を焼き上げよう (15時間) ○陶器の花器にはどのようなものがあるかを調べ、自分の作品のイメージを固める。 ○陶芸家に花器を作る際の技法や必要な道具についてインタビューをする。 ○地域の粘土を使って花器を作る。 ○登り窯で、作品を焼く方法や注意点を調べ、自分たちの手で作品を焼き上げる。			2. 生け花について学び、花瓶を飾ろう (5時間) ○市立美術館に展示会を開催させてもらえるように企画書を作成し、交渉する。 ○花瓶への花の飾り方について、インターネットや資料で調べる。 ○学校の裏山で野の花を摘んで、自分の花瓶に飾りつけ、生け花の講師に一人一人助言を受ける。 ○市立美術館に学年の作品展示コーナーを設ける。								
「緑のカーテンに学ぼう」(50時間)												
1. 緑のカーテンを設置する (10時間) ○ゴーヤ・ヘチマ・ヒョウタンをまき、栽培する。 ○緑のカーテンの設置の仕方を調べ、校舎1階のベランダにネットを張り、つるがはうようにする。 ○植物の成長の様子を記録する。			2. 緑のカーテンの効果調べ、実や種を収穫する (15時間) ○緑のカーテンを設置することで、教室内の温度が何度下がるか調べる。 ○緑のカーテンの設置が、学校生活にどのような「いやし」をもたらしたか調べる。 ○ゴーヤ・ヘチマ・ヒョウタンの実やつるを収穫する。			3. 緑のカーテンで収穫した実の利用を調べ実践する (15時間) ○ゴーヤ・ヘチマ・ヒョウタンの実の利用について調べる。 ○ゴーヤを使った料理を教わる。 ○ヘチマスポンジやヒョウタンの水筒づくりを地域のGTに教わり、日常生活で利用する。			4. 「緑の博物館」を開設する (10時間) ○緑のカーテンの実や種を利用して作品を作り、展示する。 ○1年間で学んだことを班に分かれて、ポスターセッションの形式で発表する。 ○お世話になったGTやこれから緑のカーテンに取り組む下級生を招待する。			

図6：単元によって学習集団が異なる年間指導計画の例（第5学年）

第2節 年間指導計画作成上の留意点と具体例

年間指導計画においては、時間軸に沿って単元を配列し、学習活動の一年間の概要を明示することがポイントとなる。その際、学習活動に関する細かな計画は単元計画で記載するため、年間指導計画では、単元の実施期間を概略的に示したり、主な学習活動をいくつかに絞って箇条書きにして示したりするなど、簡潔な記述となるように工夫したい。

次に示す7つの留意点は、『小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』に示された年間指導計画作成上の留意点であり、これらの点を配慮しつつ、年間の学習活動のイメージをつくることのできる簡潔な年間指導計画を作成したい。

(1) 児童の学習経験に配慮すること

児童のこれまでの学習経験やその経験から得られた成果について事前に把握し、それらを生かしながら年間の指導計画を立てる必要がある。例えば、総合的な学習の時間に初めて取り組む3年生の場合には、生活科等における学習活動とその成果を把握しておくことが大切である。

【学習の履歴を明らかにした事例】

図7は、同一の学年、すなわち同一の児童についての学びの履歴を表したものである。当該学年以前の学習経験を把握するために、学びの履歴を年間指導計画に加えることは、それまでの経験や成果を無駄なく生かすという点で有効である。

このような年間指導計画は、校内における共通理解のために有益であるだけでなく、保護者や地域の講師、あるいは進学先の中学校など、外部の関係者に対する情報提供の資料としても有益である。

学年/月	4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
20年度	緑山の暮らし										
3年 (105時間)	「とっておきの ふるさと緑山」 (75時間) ○緑山の田畑で作っている 稲・大豆の栽培 ○稲・大豆の収穫 ○ふるさと緑山のほろほろパーティ						「みんなにやさしい ふるさと緑山」 (30時間) ○人にやさしい町探検				
21年度	緑山の伝統										
4年 (100時間)	「めざせ、緑山の達人」 (30時間) ○パート1 ゆけゆけカイコ調査隊～カイコの飼育に挑戦しよう～			「緑山の達人に学ぼう」 (45時間) ○パート2 達人に弟子入り大作戦～緑山の伝統工芸を学ぼう～				「達人に学んだことをまとめよう」 (25時間) ○パート3 緑山の達人パンフレット～達人を地域に紹介しよう～			
22年度	緑山の環境										
5年 (90時間)	「調べよう 緑山のため池」 (30時間) ○生き物調査 ○水質調査 ○ため池の役割			「緑山の自然を守っていこう」 (60時間) ○ゲンゴロウの成長記録をデジタル紙芝居にまとめる ○全国のゲンゴロウの情報を集めよう ○緑山のため池フォーラムを開こう							
23年度	緑山の歴史										
6年 (70時間)	「ふるさとロマン 緑山の里」 (45時間) ○校区の古墳調査 ○緑山の古代(衣食住)を再現 ○緑山古代サミットを開こう						「よりよい生き方を求めて」 (25時間) ○たくさん学校の先輩に話を聞こう				

図7：4年間の学びの履歴を記載した資料の例

(2) 十分な見直しをもった周到な計画にすること

年間指導計画は、前年度の適当な時期に次年度の計画を検討し、実践の事実に基づいて成果や課題などに応じて修正を加えることが求められる。その際、実施時期は適切であったか、時数の配当に過不足はないかなどについて、学年間のつながりにも目を向けながら、内容、資質や能力及び態度などを中心に見直し、見直しをもって4月を迎えることが大切である。

[学年間の関連を明らかにした事例]

図8は、ある年度の第3学年から第6学年までの各学年の年間指導計画を1枚の表に書き込んで示すことで、学年間の関連を明らかにしたものである。このような資料により、その年度の全校児童が行っている総合的な学習の時間の取組を俯瞰することができる。

さらに、関連する事項について学年や学級を越えて相互に協力したり、報告を聞き合ったりする等、有効な活用方法が考えられる。

平成23年度 年間指導計画の一覧表

学年/月	4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
3年	「野菜と友だち」 (20時間) ○地域で盛んな野菜の栽培に取り組む。 ○収穫した野菜は給食の材料にもらう。		「地域の応援団を探そう」 (30時間) ○地域の暮らしを支えている人たちを調べ、インタビューによりその思いを知る。			「昔の生活の知恵を調べよう」 (20時間) ○地域のお年寄りの方々から話を聞いてパンフレットにまとめる。						
4年	「かけがえない美原川」 (20時間) ○美原川の生き物調査を行う。 ○校内に「美原川水族館」を設置する。		「昔の美原川を調べよう」 (30時間) ○河川改修が行われる前の美原川の様子を聞き取り調査によって調べる。			「美原川サミットを開こう」 (20時間) ○保護者や地域の方々に1年間を通して学んだ美原川の魅力や課題を伝える。						
5年	「自分たちで米作りをしよう」 (50時間) ○米を育てるために必要なものや育てる手順を学び、実際に地域で田んぼを借りて米作りに挑戦する。 ○農家の方から稲の病気や害虫の被害について学び、それを解決する方法を実践する。 ○収穫したお米で五平餅を作り、全校生やお世話になった方々に試食してもらう。						「めざせバリアフリー」 (20時間) ○障害のある人と関わり、共に生きることを考える。					
6年	「地域に伝わる昔話を調べよう」 (35時間) ○地域に伝わる言い伝えや昔話を集めて整理し、紙芝居や人形劇、劇化して地域の方々に発信する。 ○調べた昔話を絵本にして1冊にまとめ、市立図書館や市内の小学校に置いてもらう。											
	「和菓子作りを体験しよう」 (20時間) ○収穫した小豆を使い、オリジナルの和菓子作り挑戦する。				「よりよい生き方を求めて」 (15時間) ○先人の生き方に触れ、自分の生き方を考える。							

図8：当該年度の学年間の関連を示した資料の例

(3) 季節や行事など適切な活動時期を生かすこと

年間指導計画は、1年間を視野に入れて立てる計画であることから、季節や行事の流れを生かすことが重要である。地域の伝統行事や季節の変化、動植物とのかかわりなど、学習活動を特定の時期に集中させることでその効果が一層高まる学習活動がある。一方、栽培活動など時期を逃すことによって単元の成立が難しくなる場合もあり、十分な配慮が必要である。

(4) 各教科との関連を図ること

総合的な学習の時間の年間指導計画の作成にあたっては、各教科等との関連的な指導を視野に入れることが重要である。その際、学習指導要領で各教科等の内容を確認し、関連的な指導が可能な単元

については、相乗効果が得られるように実施時期や指導方法を調整するなどの工夫が望まれる。そのために、各教科等との関連を明示した年間指導計画の書式を工夫することも考えられる。

【各教科等を網羅した事例】

図9は、学年の各教科等のすべての単元を一覧表の形にして記入するものである。この表を作成することにより、学年の全教育活動を視野に入れることができる。指導計画を作成する際には、機械的に各教科等の単元名を書き込んで終わらせるのではなく、図9のように矢印でつないで各教科等と総合的な学習の時間の関連を示す等の工夫を行うことが有益である。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総合的な学習の時間 (70)	大好き田上川 一出発！川探検隊ー(20)				大好き田上川 一とことん追究！川調査隊ー(30)				大好き田上川一輝かせよう！未来の田上川ー(20)			
国語 (245)	本と出会う、友だちと出会う	読書のつながり、思いを書き	詩	伝えたいことをはっきりさせて書	伝言ゲーム	伝言ゲーム	伝言ゲーム	伝言ゲーム	伝言ゲーム	伝言ゲーム	伝言ゲーム	伝言ゲーム
社会 (90)	すみよい暮らしをつくる 地図の星	水はどこから	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山
算数 (175)	大きな数	円と球	わり算	1けたでわるわり算	資料の整理	角	三角形	2けたでわるわり算	面積	小数	割合	割合
理科 (105)	あたたかくなる	電気のはたらき	音	月の動き	私の研究	星の動き	星の動き	星の動き	星の動き	星の動き	星の動き	星の動き
音楽 (60)	歌と楽器のひびきを合わせよう	日本の音楽に親しもう	花笠音頭	神田ばやし	こきりこぼし	いろいろな音のちがいをかんじよう	田上川の音を作ろう	ふしのとくちようかんじよう	曲の気分かんじよう	音をきき合って合わせよう	みんなで楽しく(お別れ発表会)	
図工 (60)	たしかめながら	ざいりょう物語	キラキラ光る絵	絵の具のふしぎ	おころアート	田上川の生き物	ワンダーランドへようこそ	ゆめを広げて	ハッピーカード	木から生まれ	光をつかって	
体育 (90)	かけっこ・リレー	リズムダンス	輪転	体力テスト	水泳	男女の体にズームイン	サッカー	縄ひろ運動	マット運動	なわとび	鉄棒運動	
学校行事	1年生をむかえる会	なかよしウィークラリー	親子カヌー体験	サマーフェスティバル		秋の子どもまつり					お別れ発表会	

図9：各教科等を網羅的に示す年間指導計画の例（第4学年）

【関連教科を重点的に示した事例】

図10は、関連させる単元のみを抜粋して記入し、各教科等との関連を重点的に示すものである。これにより、より詳細な関連付けを明記することができる。

月	総合的な学習の時間	各教科等の単元名
4月	川田小 芝生大作戦 その1 校庭に芝生広場を作ろう (30時間)	【たねをまこう(理科)】(5) ・植物を育てたり、観察したりして、その変化のようすをわかりやすく記録する。
5月		【ありの行列(国語)】(12) ・段落相互の関係や事実と意見との関係を考えることを通して、観察記録文の構成をしる。
6月		【水のかさ(算数)】(10) ・かさを表す単位リットルを知り、芝生の水やりなどの生活の中で生かす。
7月	川田小 芝生大作戦 その2 芝生を元気に育てよう (20時間)	【植物の育ち方(理科)】(3) ・育てている植物の成長に関心をもち、進んで世話をすることができるようにする。
9月		【農家のしごき(社会)】(10) ・農家が、自然環境を生かしながら、品質のよい特産物を作ろうと工夫や努力をしていることに気づく。
10月		【うたをかきえる大工(国語)】(10) ・書こうとすることを明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書く力を身につける。
11月		【せつめい書をつくろう(国語)】(8) ・芝生を元気に育てるために調べた内容を「せつめい書」にまとめる。
12月	川田小 芝生大作戦 その3 「デジタル芝生博物館」を作ろう (20時間)	【ほうグラフと表(算数)】(7) ・棒グラフによって、量の比較や変化を表すことの良さを知り、生活に生かそう。
1月		【たから物をさがして(国語)】(9) ・疑問に思ったことを調べて報告する文章を書く。
2月		【漢字となぞ(国語)】(7) ・漢字の成り立ちを知るとともに、部首の構成を理解し、正しい漢字で文章を書こうとする。
3月		【生命の尊重・感謝(道徳)】(1) ・身近な命を大切にすることを通じて、自分の命も大切にすることを学ぶ。

図10：関連する各教科等を重点的に記載する年間指導計画の例（第3学年）

(5) 学年間の関連を見通すこと

第3学年から第6学年を視野に入れ、学習課題や学習活動に重複や偏りがいないか、また学年の進行に応じた学習の質的な高まりや段階的な積み上げがあるかなど、学年間の関連を見通しておくことは重要である。(図8参照)

(6) 弾力的な運用に耐えうる柔軟性をもつこと

実際に単元を展開していくと、児童の興味・関心や問題意識が当初の計画と異なったり、想定していた児童の姿と実際の姿との間に大きな隔たりが生じたりすることがある。そのような場合には、単元の途中であっても変更や改善を加えることが望まれる。ただし、修正に際しては、実現の見通しが十分あるか、児童が意欲をもって追究できるものか、新しい学習活動に質的な高まりが得られそうかなど、当初の計画よりも質の高い追究が可能かどうかを見極める必要がある。

(7) 外部の教育資源の活用及び異校種の連携や交流を意識すること

総合的な学習の時間を充実するためには、保護者や地域の人、専門家などの人的な資源や、公民館、図書館、博物館などの社会教育施設や団体、その他各種の団体などの組織的な資源を工夫して活用することが有益である。そのためには、日頃から外部との連携や協力を意識し、関係づくりに努めておくことが望まれる。

また、異校種との交流や連携を行う場合には、児童に交流を行う必要感や必然性があるかどうか、交流相手にも教育的な価値がある互恵的な関係を築くことができるかどうか等の点に配慮する必要がある。

第3節 総合的な学習の時間と各教科等との関連

総合的な学習の時間と各教科等との関連を図ることは重要であり、年間指導計画においても両者の関連を意識した計画を作成することが考えられる。なぜなら、各教科等で別々に身に付けた知識や技能をつながりのあるものとして組織化し直し、改めて現実の生活にかかわる学習において活用することが期待されているからである。また、そのことが、確かな知識や技能の習得にもつながるとともに、総合的な学習の時間での学習活動やその成果が、各教科等の学習の動機付けや実感的な理解につながるなどのよさも考えられるからである。

このように総合的な学習の時間と各教科等とは、互いに補い合い、支え合う関係にあり、教育課程全体の中で相乗効果を発揮する。したがって、教師は、各教科等で身に付ける知識や技能等を十分に把握し、総合的な学習の時間との関連を図った年間指導計画を作成することが大切である。

1. 各教科等の学習を総合的な学習の時間に生かす

各教科等で習得した知識や技能等を適切に活用して、総合的な学習の時間における探究活動を充実させていく関連の仕方が考えられる。児童が自ら課題を設定し、その課題の解決に向けて情報を収集し、集めた情報を整理したり分析したりして自分の考えとしてまとめ、表現していく中において、児童が各教科等の知識や技能等を主体的に繰り返し活用していく姿である。

例えば、社会科の資料活用の方法を生かして情報を収集したり、算数科の統計の手法でデータを整理したり、国語科で学習した表現手法を使って分かりやすいレポートを作成したりすることなどが考えられる。また、理科で学んだ生物と環境の学習を生かして、地域に生息する生きものの生育環境を考えることなども考えられる。

このように、各教科等で学んだことを総合的な学習の時間に生かすことで、児童の学習は一層深まりと広がりを見せることが期待できる。

2. 総合的な学習の時間を各教科等に生かす

総合的な学習の時間で行われた学習活動によって、各教科等での学習のきっかけが生まれ意欲的に学習を始めるようになったり、各教科等で学習していることの意味やよさが実感されるようになったりすることも考えられる。また、総合的な学習の時間で行った体験活動を生かして国語科の時間に依頼状やお礼状を書くなど、総合的な学習の時間での体験活動が各教科等における学習の素材となることも考えられる。

例えば、総合的な学習の時間で食や健康に関心をもった児童は、家庭科における栄養を考えた食事や快適な住まい方の学習に前向きに取り組む姿が想像できる。また、体育科における保健の学習でも総合的な学習の時間で学んだ成果を生かして、学習に深まりと広がりを生み出すことが期待できる。

■年間指導計画作成の手順と留意事項

表1は、先に述べた年間指導計画作成上の留意点を踏まえ、実際に年間指導計画を作成するための手順とそれぞれの留意事項の例を示したものである。

表1：年間指導計画作成の手順の例

	手 順	年間指導計画作成の留意事項
I. 素案の作成	I-1：学校の全体計画と関連付けて単元を配列した素案の作成	<input type="checkbox"/> 学習指導要領で総合的な学習の時間の「第一の目標」を確認する <input type="checkbox"/> 実施しようとする単元展開と自校の「目標及び内容」、「育てようとする資質や能力及び態度」との間に整合性があるか確認する <input type="checkbox"/> 実際に年間の指導計画の中に単元の予定を入れ込み、年間指導計画を作成する <input type="checkbox"/> 学年・学級の経営方針との関連を図る
II. 素案の吟味・修正・改善	II-1：児童の意識の流れの把握	<input type="checkbox"/> 児童の過去の学習経験について把握する【(1)】 <input type="checkbox"/> 児童の意識の実態に照らして、1年間の意識の流れに無理がないか検討する
	II-2：単元配列の検討	<input type="checkbox"/> 年間を通して学ぶことが期待される内容が当該学年の児童にふさわしいか検討する【(1)】 <input type="checkbox"/> 年間を通しての資質・能力・態度の育成が無理なく確実に進むように配列されているか確認する <input type="checkbox"/> 単元の実施が適切な時期に配列されているか検討する【(3)】
	II-3：各教科等及び学年間の関連	<input type="checkbox"/> 各教科等の年間指導計画を把握し、関連について検討する【(4)】 <input type="checkbox"/> 他の学年を見通し、当該学年として学習活動の水準が適切か、下学年と比べて学習活動に質的な高まりや積み上げがあるか検討する【(5)】
	II-4：地域素材の教材化及び外部資源の活用	<input type="checkbox"/> 地域の素材をとらえ、実地調査する <input type="checkbox"/> 地域の行事等について、日程と内容の両面から関連を検討する【(7)】 <input type="checkbox"/> 地域の外部資源が適切に活用されているか検討する【(7)】 <input type="checkbox"/> 異学年との交流や連携が無理なく位置付いているか検討する【(7)】
III. 管理と運用	III-1：授業時数の管理と運用	<input type="checkbox"/> 探究活動を行うために必要な時数が確保されているか検討する <input type="checkbox"/> 単元の途中では、実施した授業時数を確認し、教育課程上の授業時数が確保されているか確認する
	III-2：年間指導計画の弾力的運用	<input type="checkbox"/> 単元の途中では、児童の興味・関心や問題意識が追究課題や学習課題とずれていないか確認し、「ずれ」が生じた場合には、年間指導計画に変更や修正を加える【(6)】
* 【 】の数字は、『小学校学習指導要領解説（解説65-69ページ）』を示している。		総合的な学習の時間編の7つの配慮事項の各項目